

復興への希望こめて  
名付けた花  
農業再生の一助となれ

すぎした ひろすみ  
杉下 博澄

かつらお胡蝶蘭合同会社

昭和56年(1981)、葛尾村生まれ。  
福島県農業短期大学卒業。花卉栽培やバイオマスなどを学ぶ。  
東京、田村市などでの会社員を経て、2017年、3農家1企業による  
「かつらお胡蝶蘭合同会社」を設立。

ふるさと葛尾村は、東京電力福島第一原発の事故で突如、  
全村避難に。住む人がなく生活感を失った村を見て、胸が痛くなりました。  
「自分にできることはないだろうか」と考え始めたころ、  
新しい施設園芸が立ち上がる話を聞きました。当時、私は村外で働いていましたが、  
「できるかもしれない、やってみよう」と勤めていた会社を辞め、  
思いを同じくする仲間とともに胡蝶蘭栽培の準備を始めました。  
そして、避難指示解除の翌年、「かつらお胡蝶蘭合同会社」を設立。  
福島再生加速化交付金を活用した公設民営の栽培施設で、  
白い大輪の花を咲かせる贈答用胡蝶蘭を栽培しています。  
復興への希望をこめて付けた名前は「hope white (ホープホワイト)」。  
現在は毎月4,000株の苗を仕入れて育成し、首都圏を中心に出荷しています。  
温度と湿度の管理が難しく、当初は試行錯誤の連続。  
でも品質を上げる努力を続け、2019年、埼玉県鴻巣市場の品評会で  
「埼玉県知事賞」を受賞することができました。「幸福が飛んでくる」が、  
蝶が羽を広げたような胡蝶蘭の花言葉。私たちの事業が成功例となり、  
花卉栽培が県内に波及して農業再生の一助となることを願っています。



胡蝶蘭は首都圏などへ出荷しているほか、  
インターネットでの販売も行っている